

2022年7月29日

住友生命保険相互会社

野村アセットマネジメント株式会社が運用する「グローバル・サステナブル・エクイティ・オープン投信」への投資 ～運用収益の獲得と社会課題解決の両立を目指すインパクト投資～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、野村アセットマネジメント株式会社が運用するインパクト投資ファンド「グローバル・サステナブル・エクイティ・オープン投信（適格機関投資家専用）」（以下「本ファンド」）への投資（100億円）を決定しました。

本ファンドは、投資とエンゲージメント活動を通じて、高い運用収益の獲得と、社会的課題の解決の同時達成を目指すグローバル株式ファンドです。

本ファンドはサステナビリティに積極的に取り組む企業に対し、中長期的に投資していくことを運用の軸としています。具体的には、「気候変動の抑制」・「医療問題の改善」等、複数のインパクト・ゴールを掲げ、その達成状況を測定するための指標（KPI、以下「KPI」、例：炭素排出量、感染症等による死亡率）を設定し、モニタリングしています。

下図で示すように、設定したインパクト・ゴールに応じ、KPIの設定、投資分野や企業の特定、目標達成度合いを測定するための指標（CPI）の設定を行うほか、エンゲージメント活動を充実させることで、インパクトの創出に向けた働きかけを行います。

住友生命は、2022年度からインパクト投資を本格化し、今年度はファンドを中心に約200億円の投資を目指しています。引き続き、責任投資を推進し、社会課題の解決に貢献することによるインパクトの創出に取り組んでいきます。

<インパクト・ゴールの設定とモニタリングの例>



© 野村アセットマネジメント

【本ファンドの概要】

運用会社	野村アセットマネジメント株式会社
ファンド名称	グローバル・サステナブル・エクイティ・オープン投信 (適格機関投資家専用)
投資金額	100 億円

住友生命は、「なくてはならない」生命保険会社の実現を目指し、事業活動を通じた SDGs の達成に向けて取組みを進めています。今後も責任投資を通じ、持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、運用収益力の向上に取り組んでいきます。

【本件を通じて貢献すると想定される主な SDGs 項目】



以上